

変わる! めどす!
戦後 80 年

沖縄のお金

EASY COME, EASY GO

The History of Money in Postwar OKINAWA



入館無料

お金 —

私たちの暮らしや社会を支え、時には人生までも変えてしまう不思議な存在。

戦後の沖縄は、通貨や銀行が停止し、物々交換や米軍の配給に頼る「無通貨時代」から人々の生活が始まりました。その後、米国と日本の政策のはざまでも幾度も通貨が変わりました。

私たちが使うお金とその流れは社会の変化に伴い、ますます多様化しています。本展では、当館所蔵資料を中心に時代とともに移り変わり、巡ってきた沖縄のお金にまつわる歴史やエピソードを紐解きます。



2025 12/9 [火] 2026 9/27 [日]

会場 — 沖縄県公文書館 閲覧展示棟 1 階 展示室

〒901-1105 沖縄県南風原町字新川 148-3

開館時間 — 9:00 ~ 17:00 休館日 — 月曜・祝日・慰霊の日・年末年始

主催 — 沖縄県公文書館指定管理者(公財)沖縄県文化芸術振興会 ☎ 098-888-3875

協力 — 小谷 融(大阪経済大学 名誉教授)

後援 — 金融庁・内閣府沖縄総合事務局・株式会社琉球銀行・株式会社沖縄銀行・株式会社沖縄海邦銀行
J-FLEC(金融経済教育推進機構)・沖縄県金融広報委員会・北大東村教育委員会・株式会社文響社

土日開館

変わる!めぐる!

戦後80年

沖縄のお金

EASY COME, EASY GO - The History of Money in Postwar OKINAWA

物資不足と戦果アギヤー



油類自由取得禁止に関する告示

1946年11月

終戦後、物資が不足し人々は生きるだけで精一杯でした。なかには、米軍の物資集積所から物資を持ち出す者(戦果アギヤー)もありました。こうした行為を問題視した米国軍政府は、住民に対し水やガソリン等の抜き取りの禁止と、違反者への処罰を通知しました。[0000148130]

B円からドルへ



B円からドルへの通貨交換の様子(琉球銀行) 1958年9月

沖縄戦後の「無通貨時代」を経て、1946年4月から通貨経済が再開しました。1958年9月、米国は沖縄統治継続を図るため、外国資本の導入を目的とした戦後5回目の通貨交換を実施しました。これにより沖縄の法定通貨はドルとなりました。

[0000112303 10-49-2]

琉球銀行の設立



米国軍政府布令第1号

1948年5月

沖縄戦によって、沖縄内のすべての銀行は機能を停止しました。1948年5月1日、琉球銀行は、米国軍政府の布令に基づき開業しました。設立当初は、現在の銀行業務に加え、通貨発行権を持つ中央銀行的な役割も担っていました。

[RDAE000049]

通貨交換の舞台裏



ヘリコプターによる離島への

ドル輸送 1958年9月

B円からドルへの切替は米国側で極秘に検討が進められました。米国軍政府は、通貨交換の3カ月以上前にドルを「TOY HORSE」(おもちゃの馬)に偽装した軍用物資として那覇ふ頭に運びこみ、牧港の倉庫に保管しました。

[0000112303 10-45-1]

ドルから円へ



通貨確認

1971年10月9日、ドル下落による沖縄住民の損失を防ぐため、1日限定で「通貨確認」が行われました。人々が持参したドル紙幣には消しゴム印が押されました。確認された現金は復帰後、1ドル=360円との差額が補償されました。

[0000036699]

ニクソンショックの衝撃



通貨闘争統一ストライキ総括大会(与儀公園)

1971年8月の「ニクソンショック」でドルの価値が下落しました。ドルの下落は、沖縄住民にとって復帰時の財産の目減りを意味し、人々は円への即時切替や1ドル360円換算を求めて起ち上がりました。

[0000096817 06-039]



キャラウェイ高等弁務官より
金融検査部へ贈られた杯 [0000033504]

特別
企画

1億円の重さを体感しよう!

展示を見たあとは
2FへGO!



日本銀行那覇支店提供 ※模擬紙幣



沖縄県公文書館
Okinawa Prefectural Archives

閲覧展示棟
1F 展示室



Homepage



Facebook



バス: 那覇バス1~5番、12、14~16、19番「新川営業所」下車徒歩3分
東陽バス191番「県立医療センター前」下車徒歩10分